

2.2.3 地形・地質

(1) 地形の概況

調査範囲は、岩手県と秋田との県境の奥羽山脈、太平洋との間には北上山地を有する地域であり、高標高地が2列に縦貫している。山間部は標高が1,000mを優に超える地域となっている。

流域圏別に見ると、馬淵川上流流域は中部丘陵地と北上山地で構成されており、標高150～450mまでの区域が大半を占めており、斜面傾斜も比較的緩やかな流域となっている。

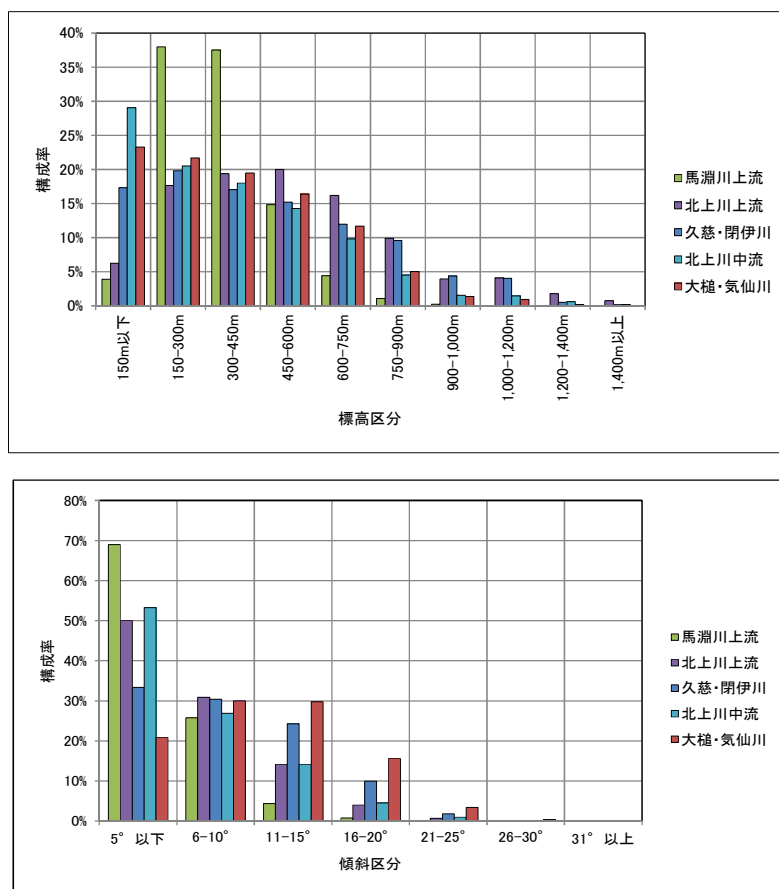
北上川上流流域では、東西を奥羽山脈と北上山地に囲まれた地域であることから、主に150～750mと幅広い範囲の標高帯となっている。

久慈・閉伊川流域では大半が北上山地で構成され、海岸部には三陸海岸段丘地が分布しており、標高帯は北上川上流流域と類似している。

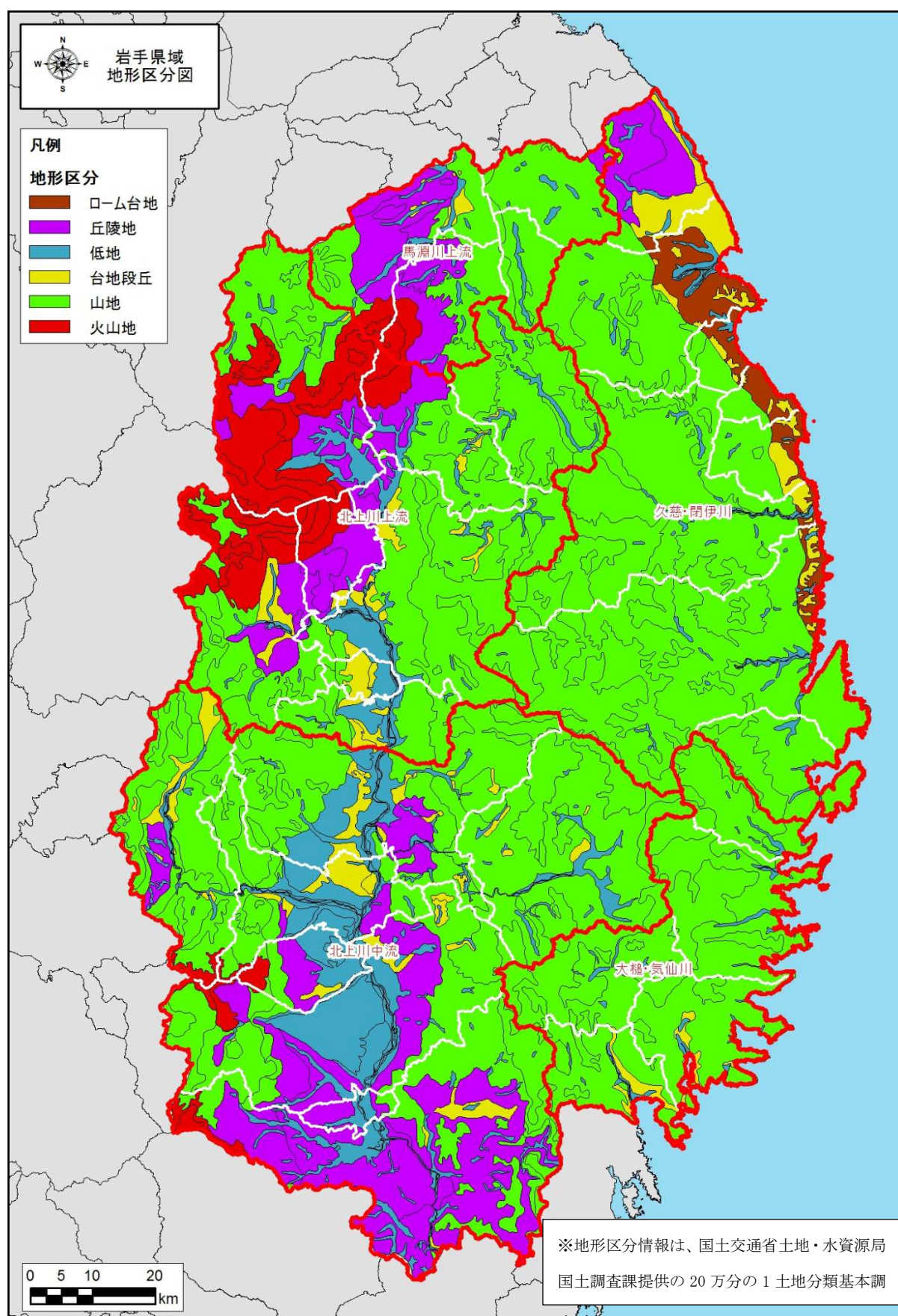
北上川中流流域では奥羽山脈と北上山地に囲まれた低地帯である北上平野が分布し、標高150m以下の割合が大きく、斜面傾斜も緩やかとなっている。

大槌・気仙川流域ではほぼ北上山地で構成され、0～600mと幅広い範囲の樹高帯となっており、他の流域とは異なり、斜面傾斜は6～15°の分布域が最も多い。

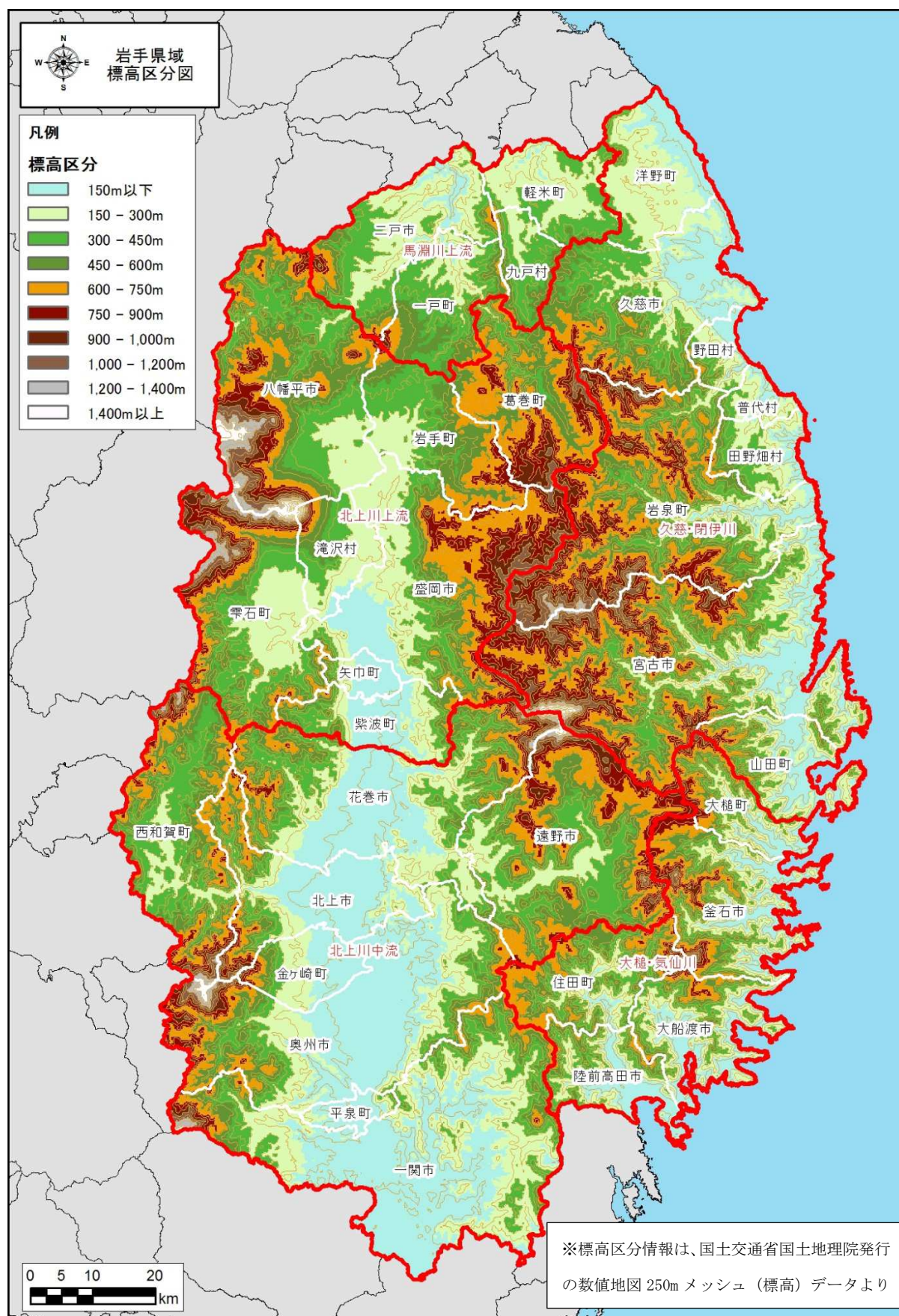
図表 I-19 流域圏別の地形特性



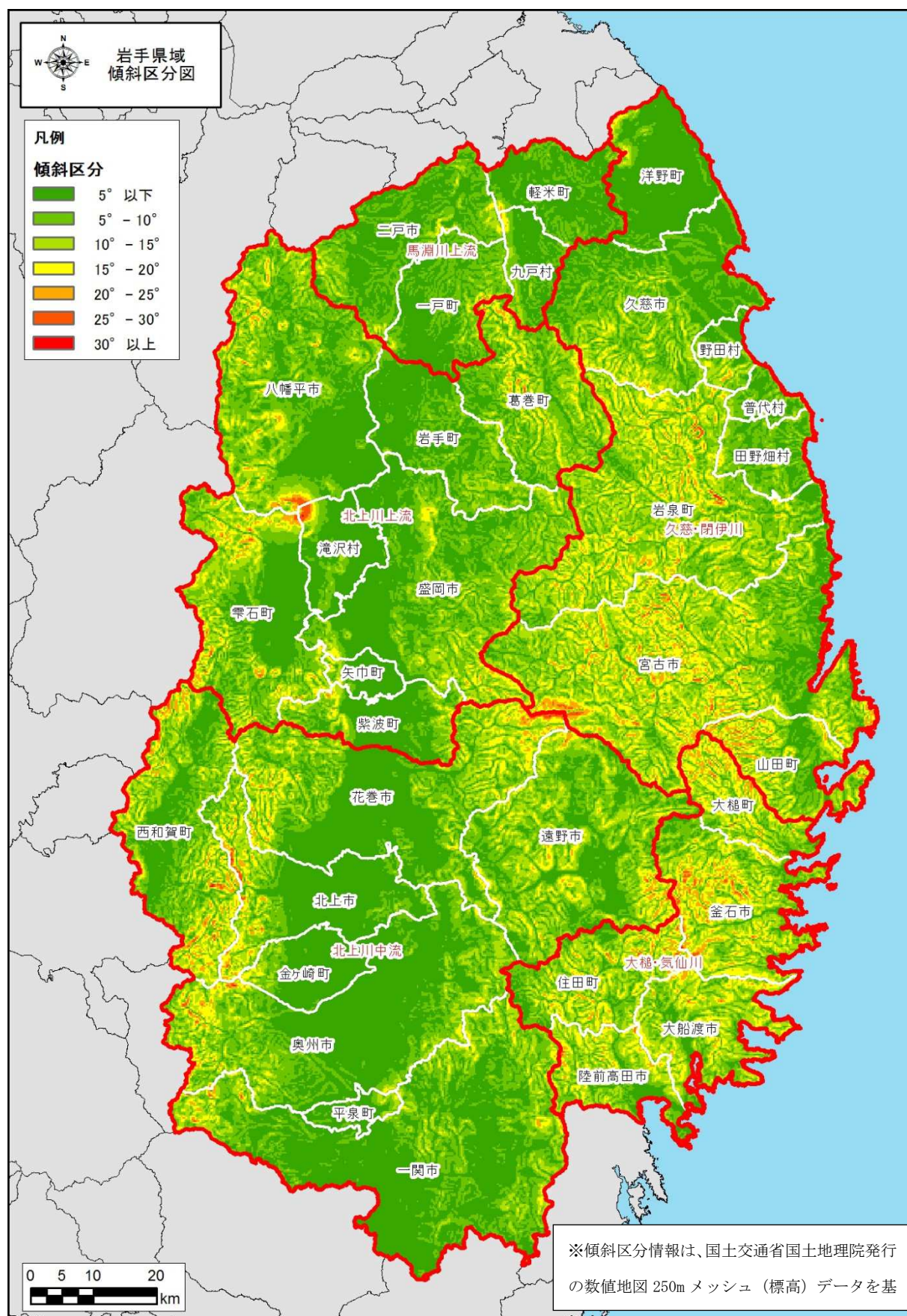
図表 I-20 岩手県域地形区分図



図表 I-21 岩手県域標高区分図



図表 I-22 岩手県域傾斜区分図



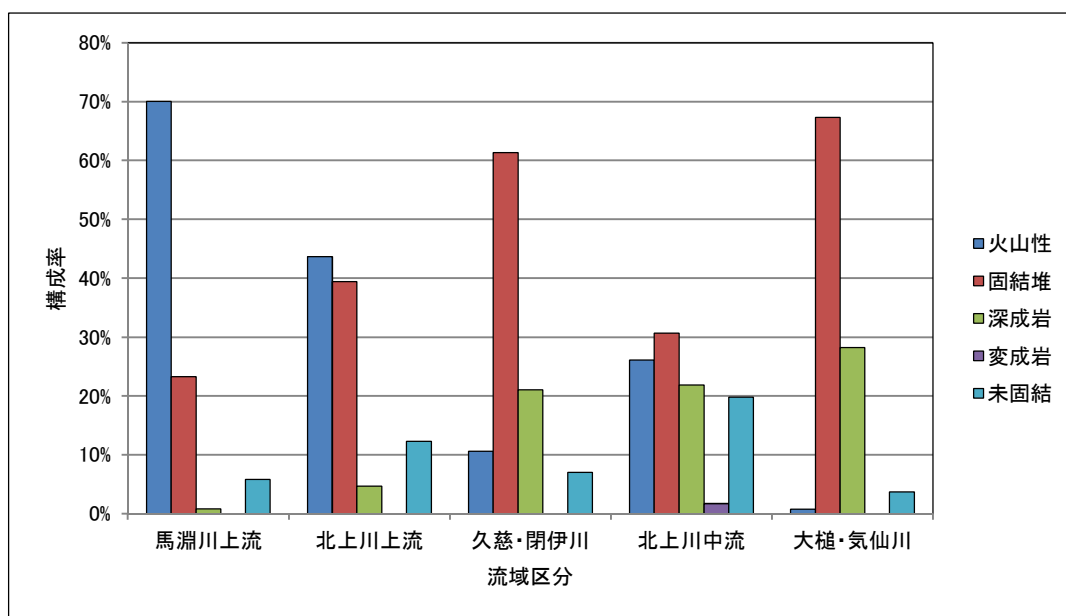
(2) 地質概況

岩手県における地質の概況としては、奥羽山脈側には火山性、北上山地北部側は固結堆、北上山地南部側は深成岩、県内中央部低地帯には河川由来の未固結の地質が分布している。

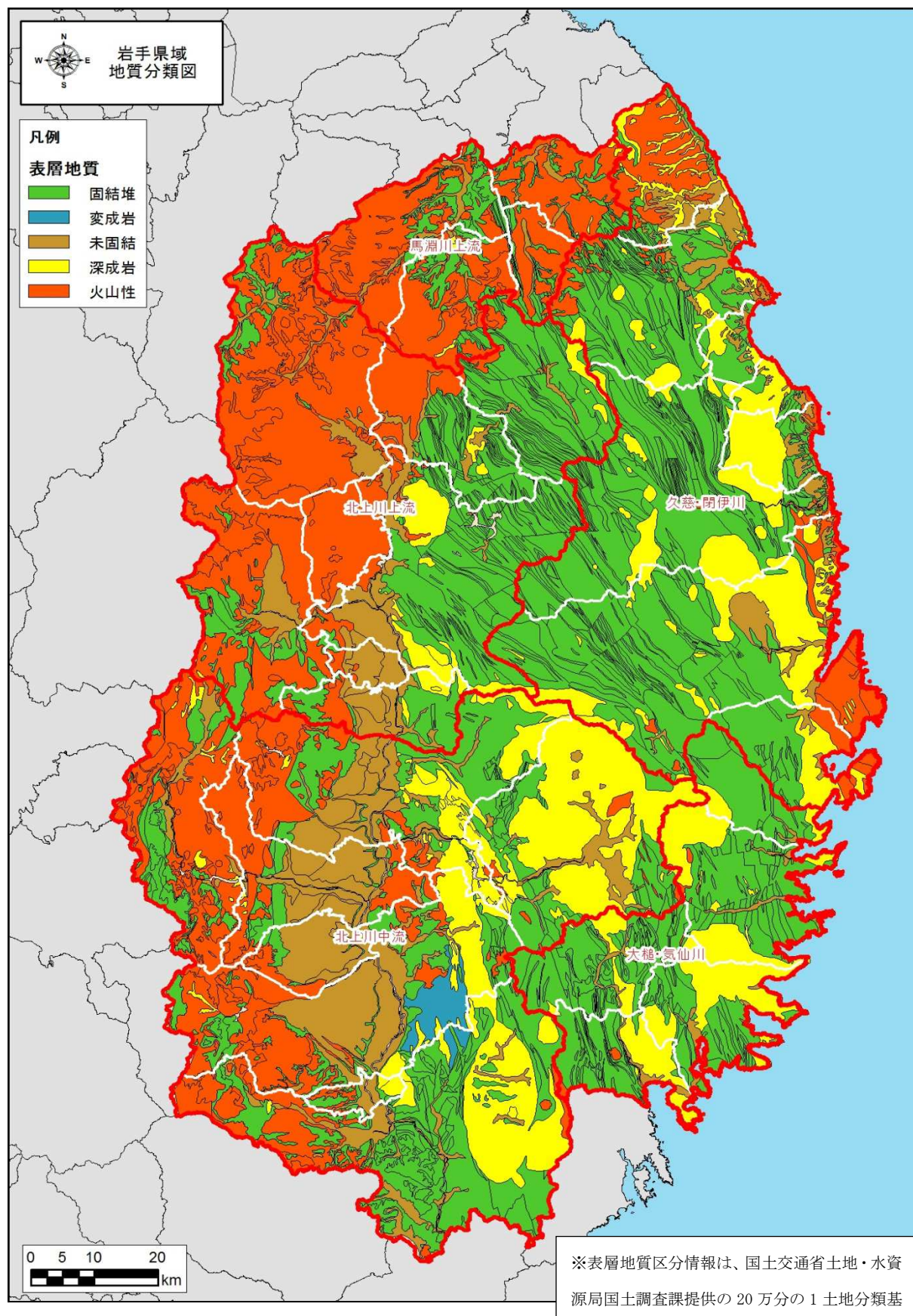
流域圏別に見ると、大きく4つに分類することが出来る。

太平洋側に位置する久慈・閉伊川流域と大槌・気仙川流域の地質は、泥岩、砂岩、輝緑凝灰岩などの固結堆が大半を占め、次いで、花崗岩質岩石や蛇紋岩質岩石などの深成岩で構成されている。馬淵川上流流域では、軽石質火山砕屑物や火山砕屑物などの火山性が優占している。北上川上流流域では、西側に火山性、東側に固結堆が分布している。北上川中流では、火山性、固結堆、深成岩、未固結とほぼ均等に分類している状態となっている。

図表 I-23 流域圏別の地質特性



図表 I-24 岩手県域地質分類図



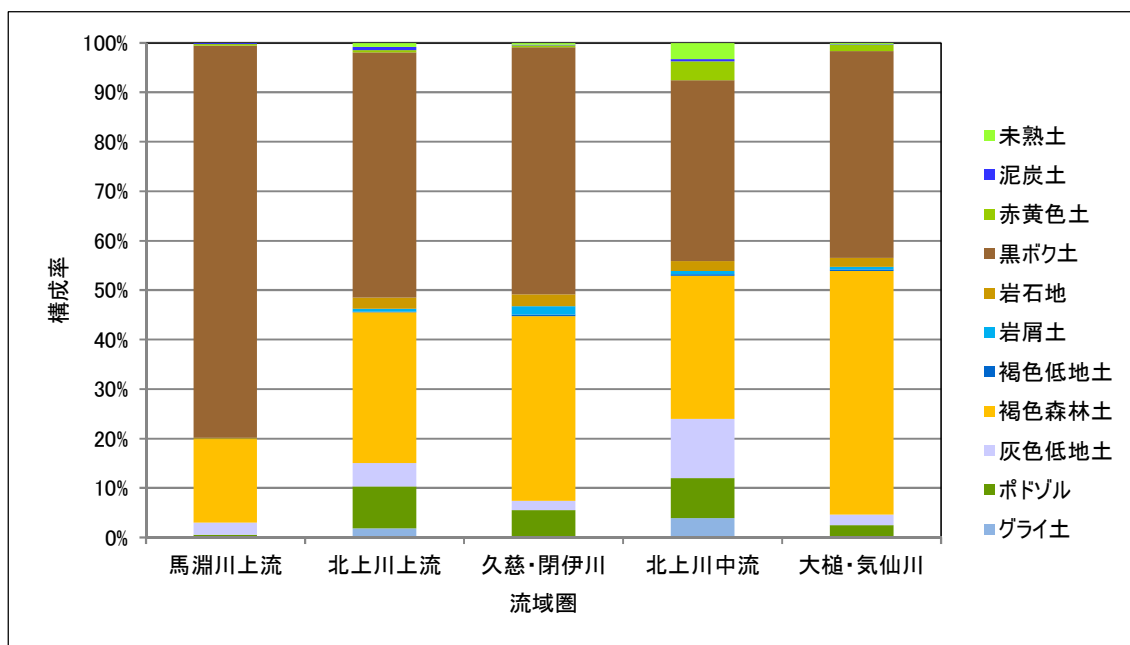
(3) 土壌概況

岩手県における土壌の概況としては、ほぼ全域が褐色森林土と黒ボク土で覆われており、奥羽山脈や北上山地の尾根部分にポドゾル土壌が分布している。北上平野部分では、沖積地であることから灰色低地土やグライ土が分布している。

流域圏別に見ると、大きく3つに分類することが出来る。

馬淵川上流流域では、黒ボク土が優占し、わずかに褐色森林土が分布する構成となっていた。久慈・閉伊川流域と大槌・気仙川流域では、黒ボク土と褐色森林土が半数を占める構成となっていた。北上川上流流域と北上川中流流域では、久慈・閉伊川流域と大槌・気仙川流域の構成と類似しているが、山地部のポドゾル、平野部の灰色低地土が組み込まれる構成となっている。

図表 I-25 流域圏別の土壌特性



図表 I-26 岩手県域土壌分類図

